

1. 計画策定主旨

○保土ケ谷宿の魅力

旧東海道保土ケ谷宿は、宿場町として約400年前からの歴史を積み重ね、帷子橋跡や本陣跡、旅籠跡等の歴史的資源を継承しています。近年では、保土ケ谷宿場まつりをはじめ、地域の文化資源、歴史資源を活かしたまちづくり活動が活発に行われています。

今回のまち・みち再生計画は、保土ケ谷区のマスタープランのまちづくりの目標である「市の中心部に近い立地を活かし、自然や歴史などの魅力を大切に、いつまでも住み続けたいまち」に沿って、保土ケ谷駅・天王町駅周辺の再生や活性化に寄与することを目標としています。

○一般国道（保土ケ谷橋工区）について

これまでに、本陣跡地等が沿道に残る国道1号は、道路拡幅事業を実施するにあたり市民に愛される良質な都市資産として引き継いでいけるまちづくりを進めるため、『東海道の歴史的資源を活かしたまちづくり整備方針』を平成23年度にとりまとめ、第114回都市美対策審議会でご審議いただきました。

その後、「みち」自身が市民に愛される魅力的な拠点になれるよう、市民参加による意見交換を踏まえ、『同整備計画（案）（参考資料1）』を平成25年度に作成し、「東海道の歴史的資源を活かしたまちづくり～多くの人に愛されながら保土ケ谷宿の歴史を紡ぐ～」というコンセプトのもと、道路拡幅事業を進めています。

○まち・みち再生計画について

今回は、旧東海道の歴史を感じる景観形成や人が集まる場づくりなどの検討を行い、後世に引き継がれることを目指した『旧東海道「保土ケ谷宿」を未来へつなげるまち・みち再生計画』を策定し、まち・みちづくり事業を実施するにあたっての、今後の基本方針とするものです。

2. 検討の進め方

本計画は、学識経験者による検討会や市民ワークショップなどの意見を反映しながら、策定を進めています。平成26年度は、本計画の方向性を示した『まち・みち基本構想（参考資料2）』を策定しました。

(1) 検討体制

(検討会)

佐々木 葉	早稲田大学創造理工学部教授	景観デザイン・都市美対策審議会委員
斉藤 司	横浜開港資料館 学芸員	地域史・近世史
藤本 貴也	全国街道交流会議 代表理事	道路行政
野原 卓	横浜国立大学大学院准教授	都市デザイン・都市美対策審議会委員
藤原 徹平	横浜国立大学大学院准教授	建築デザイン

(庁内)

保土ケ谷区区政推進課、保土ケ谷土木事務所、都市整備局都市デザイン室、道路局企画課



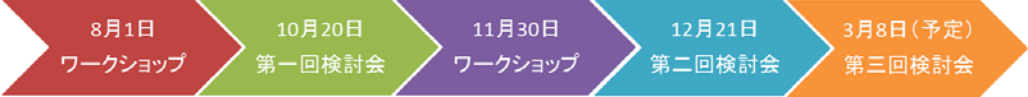
(2) 基本スケジュール

平成26年度 基本構想の検討



- 歴史を活かしたまちづくりの事例紹介  
○まち語り、みち語り
- 現況課題／歴史資源  
○道路景観と拠点施設の考え方  
○今後の進め方
- 大切にしたい「こと・もの」  
○特徴つけのために必要なこと  
○住民・団体・来場者の使いやすさ、交流促進に必要なもの
- 基本構想（案）  
○再生計画の方向（案）  
○次年度以降の進め方

平成27年度 再生計画の検討



- ゾーン別まち歩き、及びルート検証
- ワークショップ結果  
○道路空間の景観検討  
○拠点施設のあり方
- 交流拠点づくり
- ワークショップ結果  
○再生計画（たたき台）
- 再生計画（案）  
○今後の進め方

※平成26年度 みちづくり通信 2回発行

※平成27年度 みちづくり通信 5回発行予定



検討会の様子



ワークショップの様子

**保土ケ谷宿みちづくり通信**  
第8号 平成27年4月発行

「まち・みち再生計画」に向けたまち・みちづくり  
ワークショップを開催しました！

◆「まち・みち再生計画」に向けたまち・みちづくりワークショップについて◆  
平成27年1月29日（木）の19時から21時の間、保土ケ谷小学校跡地のイコトハウス（保土ケ谷区月見台3-7-1）で23名の参加者の皆さんと意見交換を行いました。このワークショップは、平成27年度に予定されている、まち・みち再生計画への市民意見反映のため、平成26年9月に開催した「旧東海道保土ケ谷宿 まち語り・みち語りワークショップ」（「保土ケ谷宿みちづくり通信第7号」参照）で出された意見等を、まちづくりのアイデアへとまとめていくことを目的に開催されました。  
旧東海道という大きな軸に対し、エリアごとに見直し、生活圏を作ってきた保土ケ谷のまちについて、エリア別のまち歩きルート各検討することで、旧東海道に結びたい資源や課題を発見・再確認できました。

◆ワークショップ（意見交換）のテーマ◆

- ①保土ケ谷宿で大切にしたいモノ・コト
- ②保土ケ谷宿の歴史を踏襲するために必要な資源
- ③まちの使いやすさ・交流促進に必要な取組み

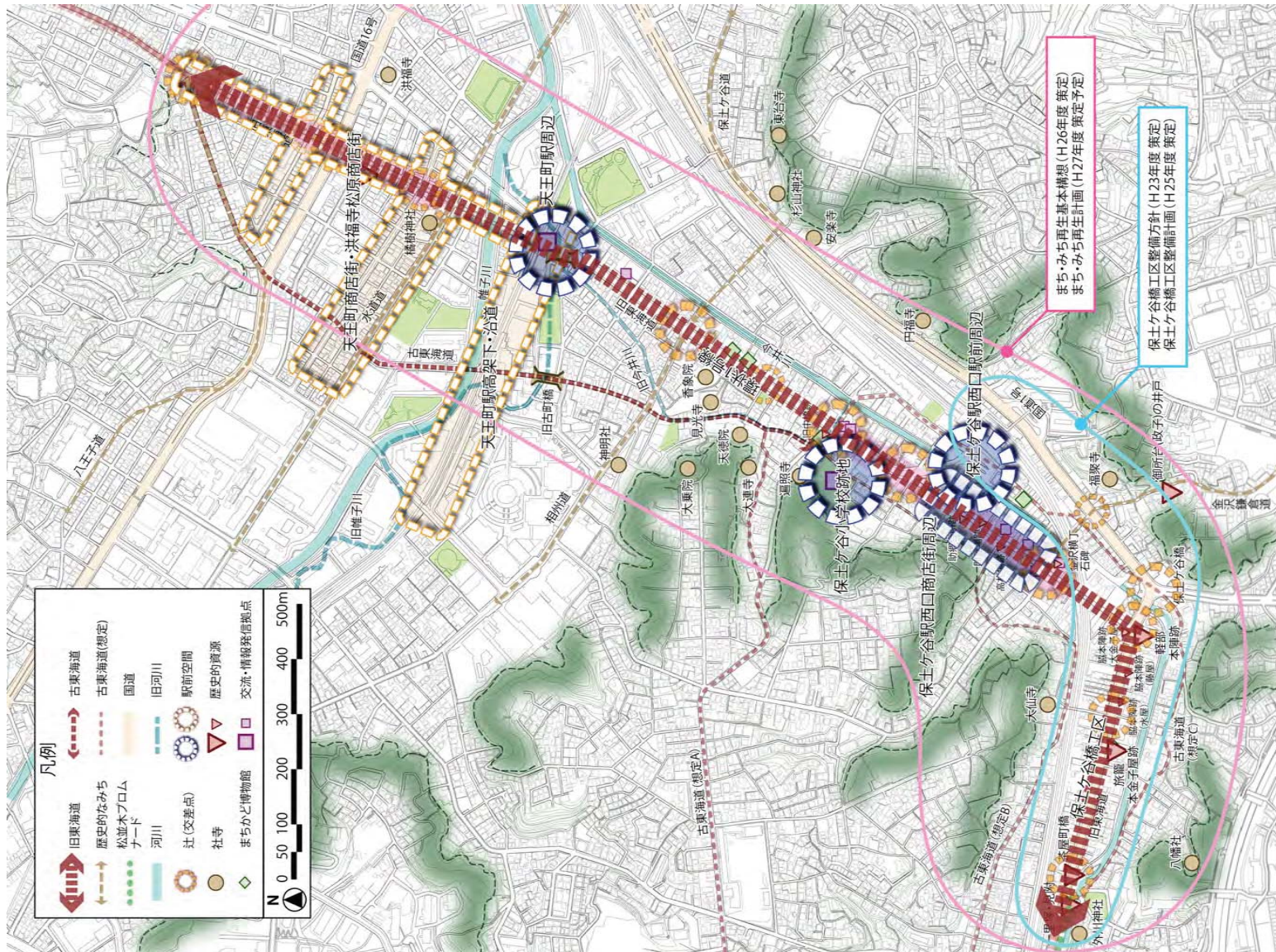
◆当日の進行プログラムと開催の様子◆

<p>ワークショップの開催 開催と進め方の説明</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開催理由</li> <li>・まちの資源と課題の整理</li> <li>・ワークショップの進め方</li> </ul>	<p>グループ毎での話し合い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマ（話し合いのテーマ）検討</li> <li>・テーマ設定</li> <li>・議題整理・議題とルート決定</li> <li>・課題抽出、解決策・魅力の発見</li> <li>・ルートのコンセプト・タイトル付け 等</li> </ul>	<p>話し合いの 結果の発表 とまとめ</p> <p>総 評 ・ 閉 会</p>
---	---	--

\* 保土ケ谷宿の歴史の資源のワークショップ等を通じて、6グループに分かれて意見交換、発表を行いました。  
※注：二つの道路が干渉していることとあり、西の方の道が解るまでの交差点の整理や整備のことを希望します。

みちづくり通信





①保土ヶ谷駅前西口商店街



②保土ヶ谷駅西口新



③保土ヶ谷小学校跡地



④天王町駅周辺

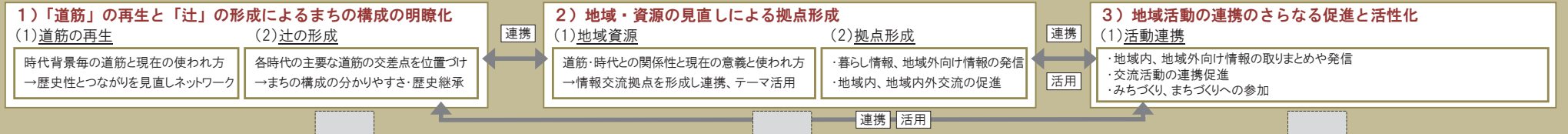


まち・みち再生計画の全体構成

：今回説明部分

1. まち・みち再生の方針

歴史を活かし地域とともに作り育てる道筋再生と拠点形成



2. まち・みちの再生計画

1) 道路景観づくり

旧東海道を主軸とし、道筋と資源の歴史の積層を活かした奥行のあるネットワーク形成

(1) 保土ヶ谷宿エリアの軸となる「旧東海道の道筋の連続性を高める」デザイン

- ・地道風舗装による旧東海道の連続性の確保
- ・往時の町割を再現する町割石による連続性の強化
- ・歴史風情の漂う街並み形成による連続性の強化

(2) 各時代の道をつなぎ、街の奥行をつくる道筋・辻のデザイン

- ・まちへのつながりと回遊性を高めていく辻の整備
- ・回遊ネットワークを形成する古道や河川沿いの道筋の整備
- ・各種資源への回遊起点となるサイン等の整備

2) 情報発信・交流促進拠点づくり

生活ゾーンの結節点における拠点機能と地域資源のテーマを活かした交流促進

(1) 4つの生活ゾーンをつなぐ3つの交流結節点の形成

- ・天王町駅周辺  
中世～近世の歴史と現代の地域情報を発信 等
- ・保土ヶ谷小学校跡地・保土ヶ谷駅周辺  
歴史・生活・交通等の地域中心として地域交流拠点化 等
- ・本陣跡周辺  
宿時代・近代の遺構等の情報発信 等

(2) 寄り道を誘い、歴史・人・文化をつなげる施設等の連携強化

- ・既存施設の再評価と新たな拠点施設、学校等との連携強化
- ・わかりやすいテーマ設定やテーマ分類

3) 地域活動連携

○地域住民のまち・みちとの繋がりと地域活動団体の連携強化

- ・広報等によるまちづくり・みちづくりの周知
- ・活動の連携による相乗効果によるまちづくりの推進力の強化

検討中

○計画・設計段階から整備、地域参加

- ・利用者や管理者の視点を反映する計画・設計段階からの地域参加
- ・まちとみちへの愛着を高める道路整備・施設整備への地域参加
- ・地域等による施設の活用促進と維持管理への展開
- ・実現に向けた社会実験やイベント等の活用

3. 重点地区の再生計画

1) 保土ヶ谷駅西口商店街周辺

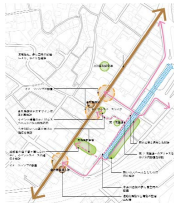
旧東海道の道筋を活かした、駅・今井川・地域活動拠点をつなぐ周遊ネットワークの形成

(1) 空間・デザインの考え方

- 継承されてきた道幅を活かした安全な交通空間づくり
- 西口商店街と駅・今井川沿いの空間をつなぐ周遊動線づくり
- サイン環境の検討

(2) 機能導入の考え方

- イベントスペースの維持・拡充
- 憩いの環境づくり
- 商店街利用者の利便性向上



2) 保土ヶ谷駅西口駅前周辺

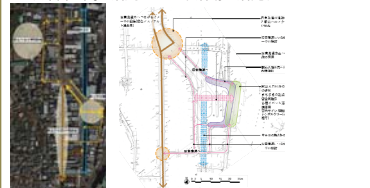
保土ヶ谷宿周辺エリアの顔に相応しい駅前空間と旧東海道・今井川を活かした分かりやすいまちの構成づくり

(1) 空間・デザインの考え方

- 保土ヶ谷宿周辺エリアの顔・まち歩きの出発点に相応しい駅前空間形成
- 舗装等を活かした駅前広場から旧東海道のつながりの強化
- 安全で利用しやすい交通施設の再配置

(2) 機能導入の考え方

- 保土ヶ谷宿周辺エリアの情報発信・案内機能の強化
- 滞留空間を活用した地域活動の活性化



3) 保土ヶ谷小学校跡地

保土ヶ谷宿周辺エリアの多様な利用者や世代を繋ぎ、交流の輪を広める拠点機能の醸成

(1) 空間・デザインの考え方

- 歴史と文化を感じさせる落ち着いた風格のある外観
- 多様な来訪者が円滑に利用できる動線計画
- 地形や風景を生かした自然を身近に感じることができる空間づくり

(2) 機能導入の考え方

- 地域の歴史や文化を活かし、集い、触れ合える交流促進機能
- 宿場の歴史や文化を伝える地域情報発信機能
- 気軽に立ち寄る休憩機能
- 保土ヶ谷駅前を補完する駐輪・駐車機能

4) 天王町駅周辺

保土ヶ谷宿周辺エリアの玄関口に相応しい駅前空間の象徴性を高める一体的な空間づくり

(1) 空間・デザインの考え方

- 旧帷子橋を活かす広場と公園の一体的な空間づくり
- 旧東海道の道筋と旧帷子川の川筋の明確化
- 地域等による活用が風情を生み出す広場創出

(2) 機能導入の考え方

- 多様なまち歩きを支援する情報発信拠点づくり
- まちの様々な人が集い憩える居場所づくり



5) 天王町駅高架下・沿道

天王町エリアの賑わいをつなげ、広げるネットワーク空間づくり

(1) 空間・デザインの考え方

- 高架下空間の有効活用と沿道への賑わいのしみ出し

(2) 機能導入の考え方

- 歩行者道線の確保と搬出入路の検討による歩行者が近づきやすい高架下空間の演出



6) 天王町商店街・洪福寺松原商店街  
地域の日常生活の拠点となる賑わいの空間づくり

(1) 空間・デザインの考え方

- 東西方向と南北方向の沿道店舗等における協力・連携体制の強化
- 歩行者にやさしく賑わいのある通りの形成

(2) 機能導入の考え方

- 商店街の特徴を際立たせ、より一層の賑わいを生み出す店舗・機能等の導入



4. 実現に向けて

検討中



旧東海道を主軸とし、道筋と資源の歴史の積層を活かした奥行のあるネットワーク形成

● 道筋毎の位置づけ

道筋の分類

- A.主軸・補助軸 (旧東海道・古東海道)
- B.歴史的道筋 (古道・近代等に発展した道)
- C.その他の暮らしを支える道筋 (丘の上とを結ぶ道、今井川沿道等)

A.主軸・補助軸 (旧東海道・古東海道)

- ①旧東海道 (近世～現代) : 保土ヶ谷宿周辺エリアの中心軸となるみち
- ②古東海道 (中世～現代) : 保土ヶ谷宿周辺エリアの補助軸となるみち

B.歴史的道筋 (古道や近代に発展した道)

- ③八王子道 (中世・近世) : 内陸方面への運搬経路の歴史を活かすみち
- ④国道16号 (近代～現代) : モータリゼーション時代を支えるみち
- ⑤シルクロード天王町 (近代～現代) : 工場立地に伴い発展し今も商店街として地域に根付くみち
- ⑥水道道 (近代～) : 日本初の鉄管水道が敷設された歴史を活かすみち
- ⑦相州道 (中世・近世・近代) : 相模の国とを結び、近代産業を支えた歴史を活かすみち
- ⑧保土ヶ谷道 (中世～近代) : 古道としての歴史を活かすみち
- ⑨金沢鎌倉道 (中世～近世) : 鎌倉へ通じる古道で江戸期に景勝地・金沢八景に向かう道としての歴史を活かすみち
- ⑩国道1号 (近世～現代) : 大動脈としての交通を支えながら宿時代の歴史資源を活かし再生するみち

C.その他の暮らしを支える道筋 (丘の上とを結ぶ道、今井川沿道等)

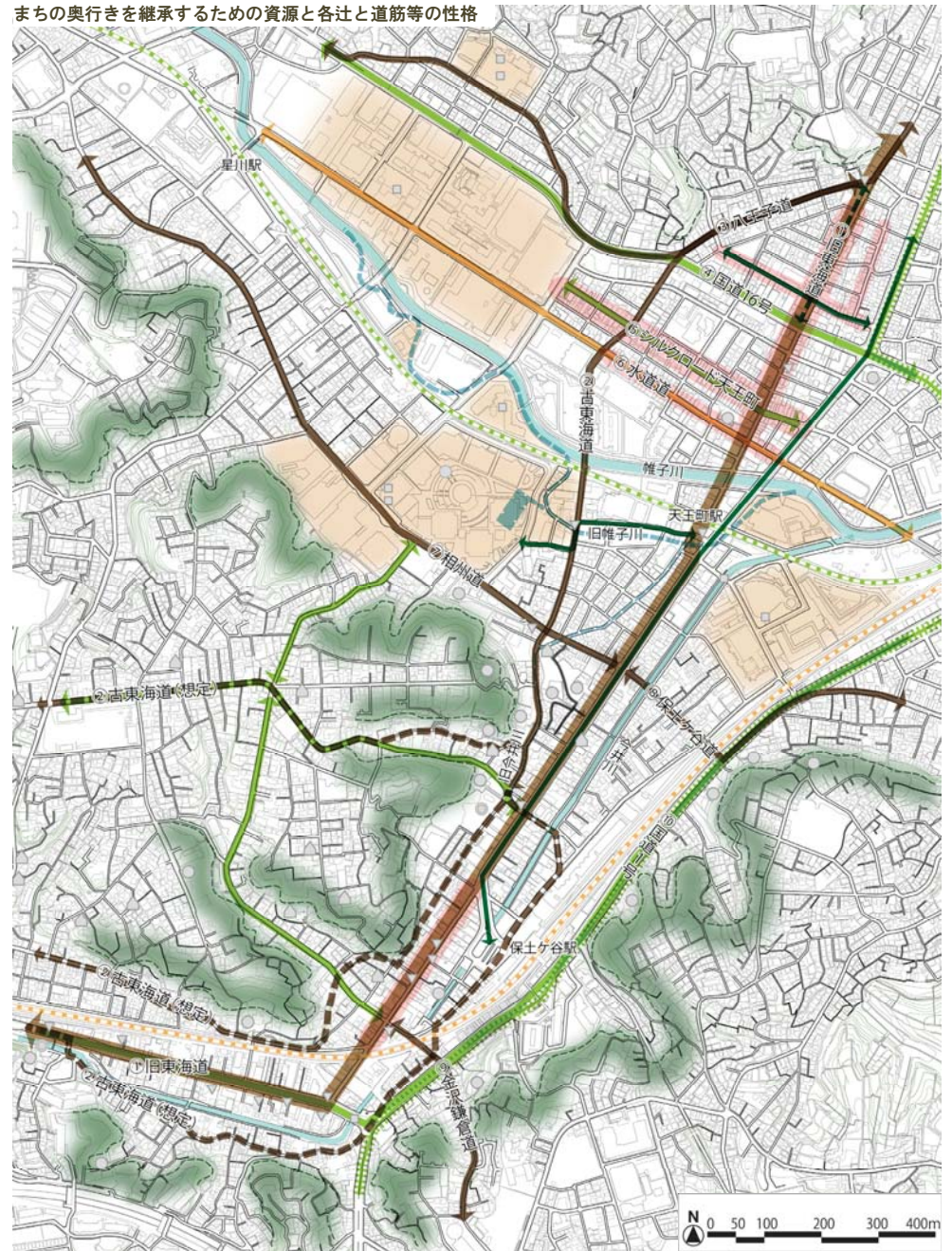
- ⑪環状1号～保土ヶ谷駅 : 旧東海道とをつなぐアクセスとしてのみち
- ⑫桜丘～YBP(ビール坂)、中の橋～桜丘西口商店街～月見台 : 丘の上の住宅地と平地の市街地を繋げるみち
- ⑬今井川プロムナード : 散策などを中心に心地良く歩けるみち

地域資源の分類

- ①地形や斜面緑地、眺望、河川等の恒久性の高い自然資源
- ②史跡・社寺等の中世・近世からの歴史的資源
- ③工場跡地群等の近代産業歴史資源
- ④洋館付住宅等の近代歴史資源
- ⑤市民プラザや公民館、公園・広場、まちかど博物館等の交流資源
- ⑥商店街や大規模店舗・オフィス、鉄道駅等の現代の暮らしを支える資源

右図凡例	時代別でのまち・みちの出来事				
	中世以前	近世	近代	現代	
	鎌倉時代以前	江戸時代	明治時代	大正時代～昭和初期	戦後以降
各時代の道筋等の成立や整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 道筋</li> <li>● 想定</li> <li>● 金沢鎌倉道</li> <li>● 古東海道</li> <li>● 八王子道</li> <li>● 相州道</li> <li>● 保土ヶ谷道</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 道筋</li> <li>● 旧東海道</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 道筋</li> <li>● 水道道</li> <li>● JR 横須線</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 道筋</li> <li>● 鉄道</li> <li>● 天王町商店街</li> <li>● 国道1号</li> <li>● 東横線副都心</li> <li>● 横浜市電</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 道筋</li> <li>● 環状1号線</li> <li>● 榊子川整備</li> </ul>
各時代の川筋の形成や整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 川筋</li> <li>● 旧今井川</li> <li>● 旧榊子川</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 川筋</li> <li>● 今井川</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>● 川筋</li> <li>● 榊子川</li> </ul>
関連する主なまちの資源等	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 社寺</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 龍神本陣、旗本金倉屋</li> <li>● 藤本陣跡等史跡サイン</li> <li>● 榊子橋</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 東京製糖保土ヶ谷工場</li> <li>● 富士ガス跡鉄保土ヶ谷工場跡地一帯</li> <li>● 南北石橋 (南北橋)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 保土ヶ谷橋 (橋復興種)</li> <li>● 保土ヶ谷宿</li> <li>● 東洋電機製造</li> <li>● 洋館付住宅</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● イコトハウス</li> <li>● 萩原商店街</li> <li>● YBP</li> <li>● 板並木プロムナード</li> </ul>
凡例	●	▼	■ / ▲ (洋館付住宅)	●	●

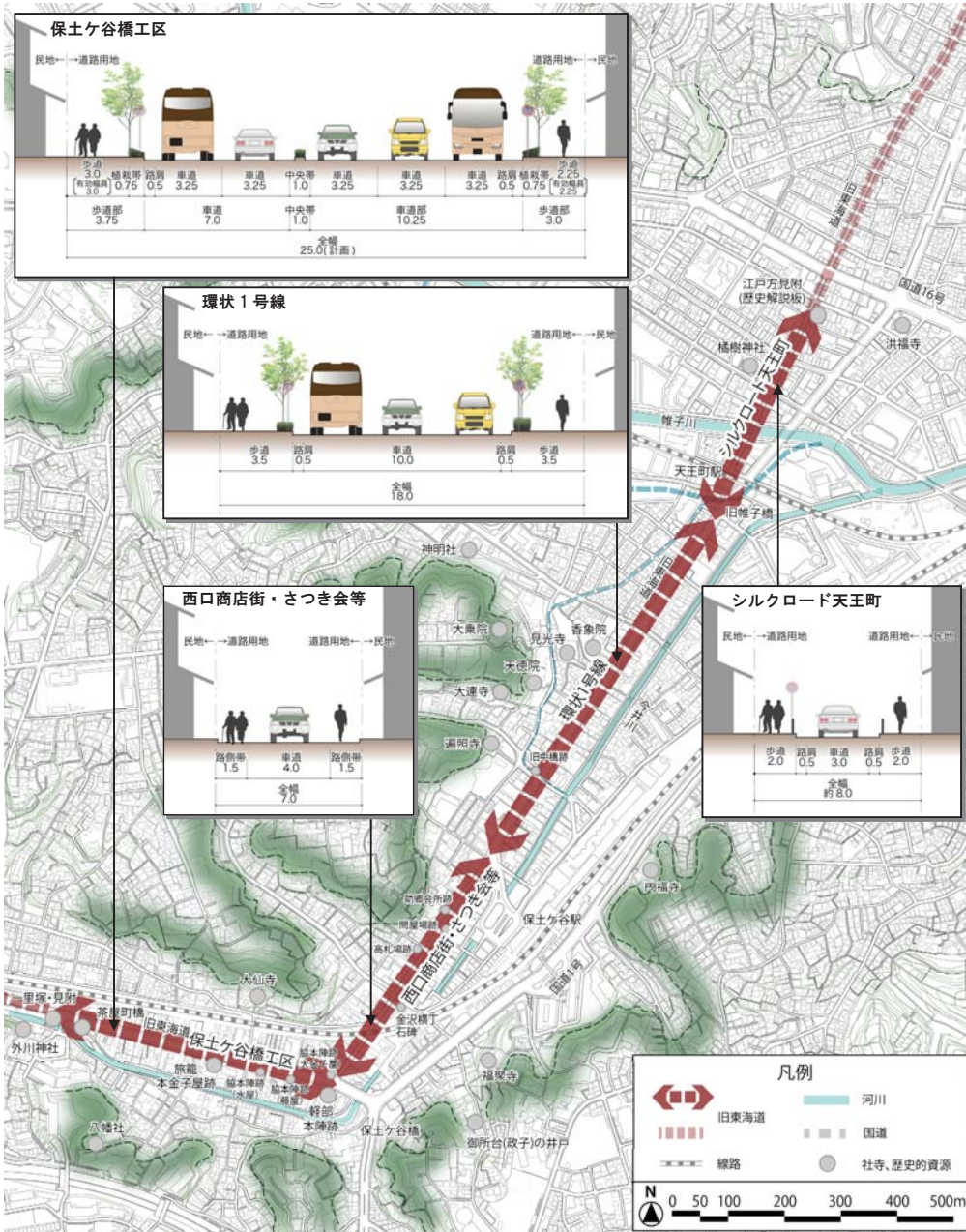
まちの奥行きを継承するための資源と各道と道筋等の性格





## 2. まち・みちの再生計画 1) 道路景観づくり (抜粋)

### (1) 保土ヶ谷宿エリアの軸となる「旧東海道の道筋の連続性を高める」デザイン



#### ① 地道風舗装による旧東海道の連続性の確保

##### (i) デザイン方針

旧東海道において共通するデザイン要素の導入による道筋のつながり強化

##### (ii) 舗装デザイン～歩行者系の空間、及び旧東海道が連続する交差点の地道風舗装～

- ・原則として、旧東海道の歩行者系の空間を地道風舗装（茶系）整備による連続性の確保
- ・断面構成が切替わる交差点内等の舗装（茶系）整備により異なる断面の道筋の連続性創出



舗装デザインイメージ



交差点内舗装イメージ（本陣前交差点付近）  
（保土ヶ谷橋工区～西口商店街）

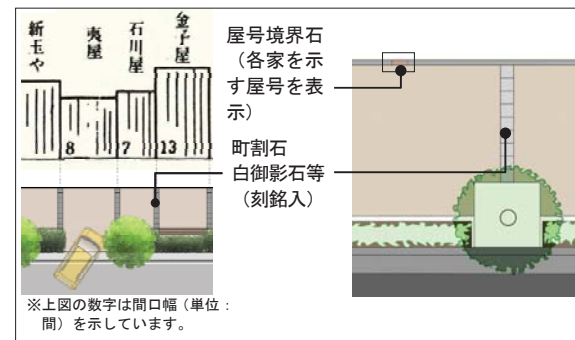
#### ② 往時の町割を再現する町割石による連続性の強化

##### (i) デザイン方針

- ・まち歩き等の際に往時のまちの状況を想起させる、往時の町割りを再現する町割石や屋号・用途等を記す屋号境界石の道路への埋め込み
- ・旧河川敷や水路等の歴史的資源（発掘調査等により掘り起こされたもの）の位置を示す等の道路整備検討

##### (ii) 舗装デザイン～往時の町割りの位置への町割石と街路樹の配置～

- ・町割石（往時の町割りを往還町並絵図から解説）を歩道等のデザインに導入
- ・歩道・歩行者通行帯での納まりに配慮した町割石のサイズ
- ・対岸の町割の認識を可能とする街路樹配置（町割石延長上に町割石設置）（旧保土ヶ谷宿の区間のみ）
- ・屋号境界石（往時の屋号・用途を往還町並絵図から解説）を地先境界ブロック等のデザインに導入



歩道舗装デザインイメージ



地先境界ブロックのデザインイメージ  
（白御影石等）



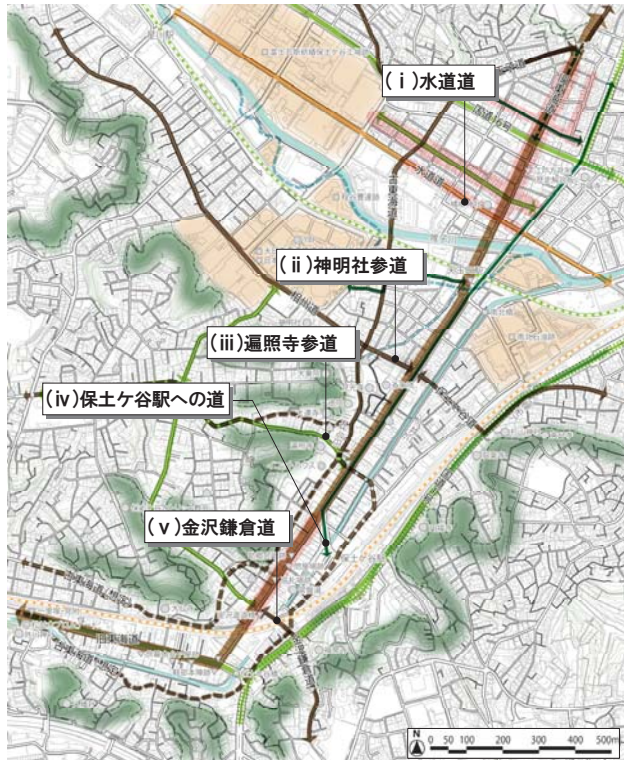
## 2. まち・みちの再生計画 1) 道路景観づくり (抜粋)

### (2) 各時代の道をつなぎ、街の奥行をつくる道筋・辻のデザイン

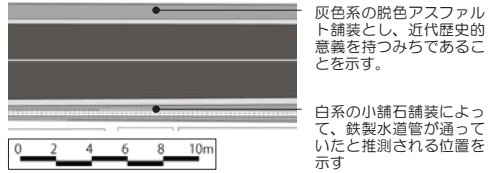
#### ①旧東海道に接続する道筋の舗装デザイン

歩道及び歩車が共存する車道において、下表に示したデザインの方針とすることで、積層する歴史を感じられる道路空間とする。河道跡や参道等の史実を継承し地域資源とのネットワークを図るため、石やガラス等の素材で資源位置を示す、アクセントとして使用する等、みちと関連する歴史資源を想起させる設えとする。

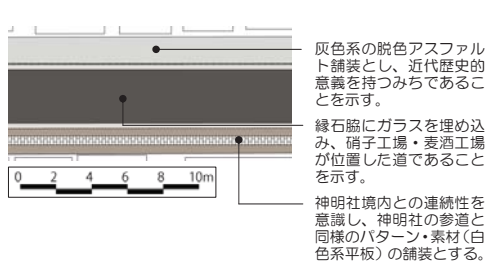
	中世の歴史的資源との関連性のある横道（旧東海道を除く）：旧東海道と差別化しつつ、往時のみちの風情を感じられるよう、濃茶系脱色アスファルト舗装とする。
	近代の歴史的資源との関連性のある横道：近代化の過程で役割を果たした道であることを伝えるため、灰色系脱色アスファルト舗装とする。
	その他の横道：通常のアスファルト舗装とする。
	（参考）旧東海道：往時のみちの風情を感じられるよう、茶系脱色アスファルト舗装とする。
	（参考）水に関する舗装：川等の水の流れた場所、水の流れやさざ波のイメージを喚起する様、白系の小舗石舗装とする。



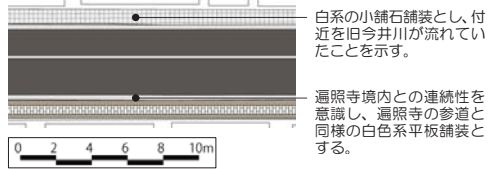
#### (i)水道道：日本初の鉄製水道管が通り、近代化の先駆けとなったみち



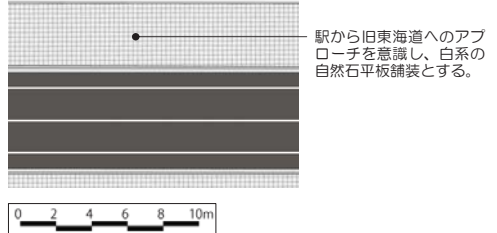
#### (ii)神明社参道：保土ヶ谷発展の中心的役割を果たしたみち



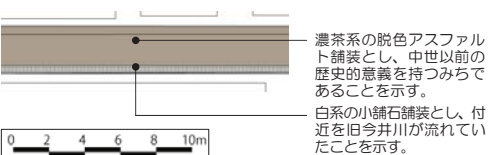
#### (iii)遍照寺参道：旧今井川の沿いのみち



#### (iv)保土ヶ谷駅への道：現在の保土ヶ谷の交通を支えるみち

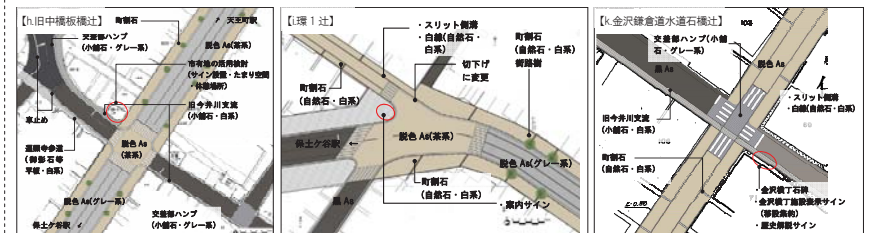


#### (v)金沢鎌倉道：江戸と金沢・鎌倉をつないだみち



#### ②まちへのつながりと回遊性を高めていく辻の整備

主要な道筋をつなぐ重要な辻においては、歴史の積層を伝え、まちの構成が分かりやすくするような設えとする。

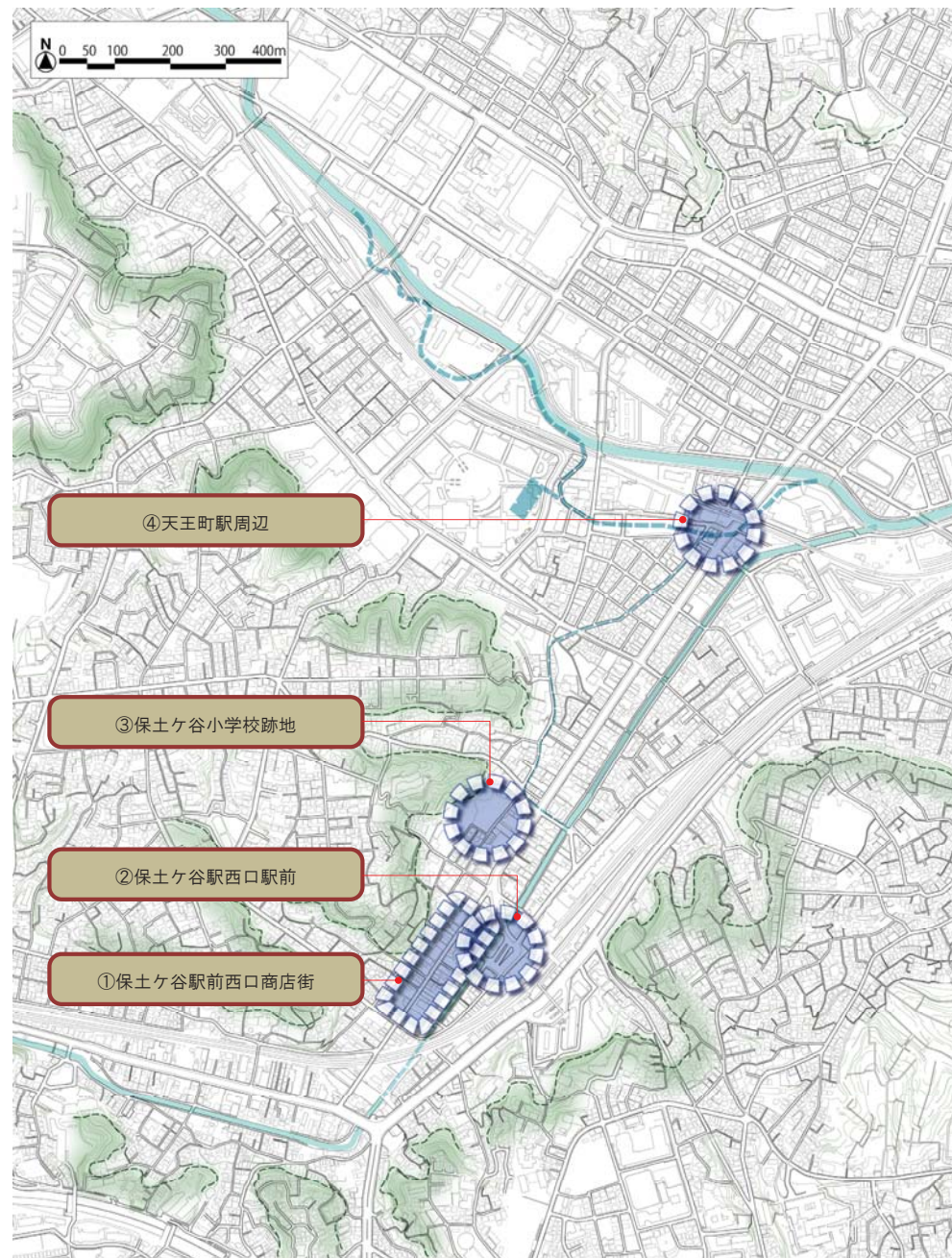




1) 重点地区の位置づけ

まちづくり・みちづくりをより効果的に実施・展開していくため、整備の緊急性や波及効果のほか、まちづくりや、みちづくりに係る具体的な事業の実施状況等を勘案し、次の位置づけとする。

地区名	地区の特徴	本計画での検討概要	位置づけ
①保土ヶ谷駅前 西口商店街	<ul style="list-style-type: none"> <li>交通安全上の課題解決が喫緊に求められているため</li> <li>地域活動の実績を踏まえ、今後より一層の地域活動連携や交流拠点としての発展が期待される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現況概要、空間的課題及び機能導入にあたっての課題、整備方針、整備・デザインの考え方、平面イメージ、実現にむけた課題を整理する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>みちづくりにより、まちづくり等の課題への対応の緊急性が高い地区や整備により周辺への影響や波及効果が高い地区。</li> <li>特に詳細に検討する地区とする。</li> </ul>
②保土ヶ谷駅 西口駅前	<ul style="list-style-type: none"> <li>まちあるきの起終点・中継点であり、まちの顔として歓迎性の高い空間づくりが求められている。</li> <li>滞留スペース確保の必要性が高く、情報発信や交流、地域活動連携機能の導入が望まれる。</li> </ul>		
③保土ヶ谷 小学校跡地	<ul style="list-style-type: none"> <li>保土ヶ谷駅周辺地区プランなどの上位計画等に位置付けられ、保土ヶ谷宿周辺エリアの中心地として各種拠点としての整備が求められている。</li> </ul>		
④天王町駅周辺	<ul style="list-style-type: none"> <li>まちあるきの起終点・中継点であり、まちの顔として歓迎性の高い空間づくりが求められている。</li> <li>滞留スペース確保の必要性が高く、情報発信や交流、地域活動連携機能の導入が望まれる。</li> </ul>		





### 3.重点地区の再生計画（抜粋）

#### 2) 重点地区の整備イメージ

##### 【①保土ヶ谷駅西口商店街】



#### コンセプト

旧東海道の道筋を活かした、駅・今井川・地域活動拠点をつなぐ周遊ネットワークの形成

#### 平面イメージ

無電柱化、歩行空間の拡幅により、ゆとりを確保

#### イメージハンプの設置

高札場跡地を示すサイン位置を再検討

イベント時等のかたびらスペースシバタの機能活用

今井川沿いへの通り抜けの確保を検討

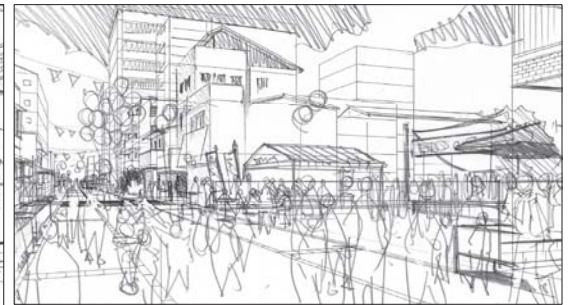
税務署の建て替え等に合わせた、イベントスペース確保を検討

イメージハンプの設置

#### 空間イメージ：日常利用時



#### 空間イメージ：イベント時



#### 空間・デザインの考え方

- 継承されてきた道幅を活かした安全な交通空間づくり
- 西口商店街と駅・今井川沿いの空間をつなぐ周遊動線づくり
- サイン環境の検討

#### 機能導入の考え方

- イベントスペースの維持・拡充
- 憩いの環境づくり
- 商店街利用者の利便性向上

#### 実現に向けて

- 無電柱化へ向けた地元調整・公民協力
- 地域活動団体による協力体制づくり
- 河川工事等との調整



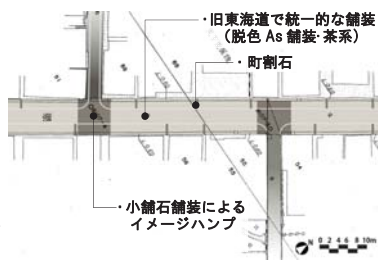
高札場跡地サインの設置環境



金沢鎌倉道石標の設置環境

#### “まちづくり”“みちづくり”の方針（まち・みち再生基本構想より抜粋）

- ・宿時代から継承される道路幅員を生かした道路景観とする。
- ・歩行者の安全性を確保する。
- ・歩車共存の道路空間として断面構成とデザインを検討する。
- ・交通のあり方を検討する。
- ・街道風情を感じる設えとする。
- ・イベント等に活用しやすい設えと仕組みを検討する。



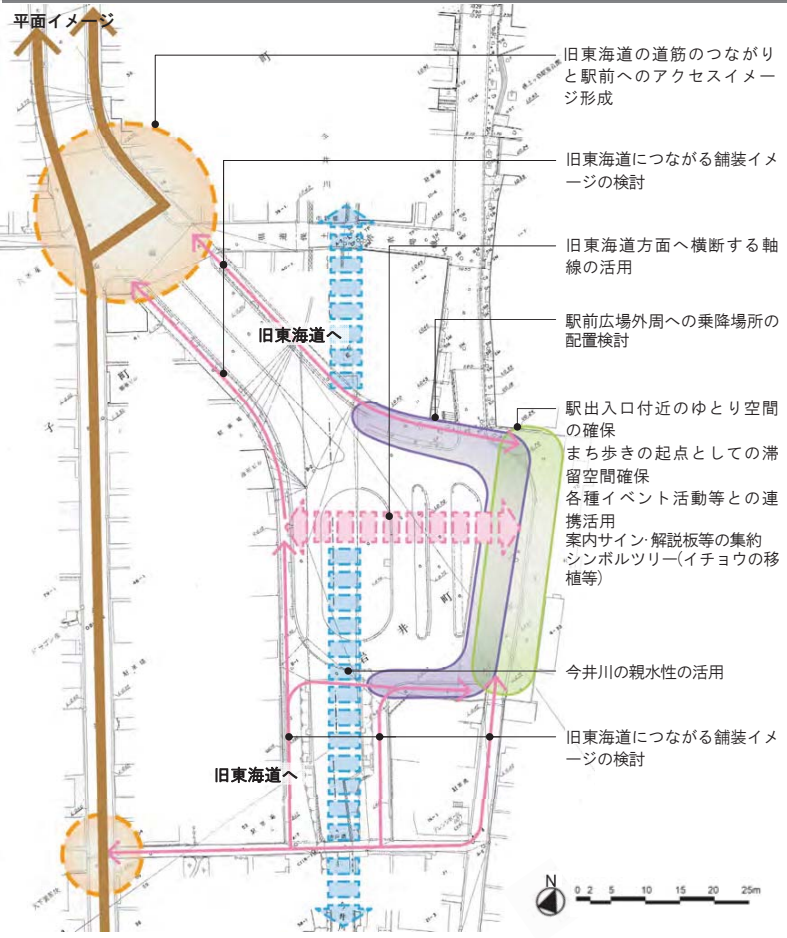


### 3.重点地区の再生計画（抜粋）

#### 【②保土ヶ谷駅西口駅前周辺】



#### コンセプト 保土ヶ谷宿周辺エリアの顔に相応しい駅前空間と旧東海道・今井川を活かした分かりやすいまちの構成づくり



**空間・デザインの考え方**

- 保土ヶ谷宿周辺エリアの顔・まち歩きの出発点に相応しい駅前空間形成
- 舗装等を活かした駅前広場から旧東海道のつながりの強化
- 安全で利用しやすい交通施設の再配置

**機能導入の考え方**

- 保土ヶ谷宿周辺エリアの情報発信・案内機能の強化
- 滞留空間を活用した地域活動の活性化

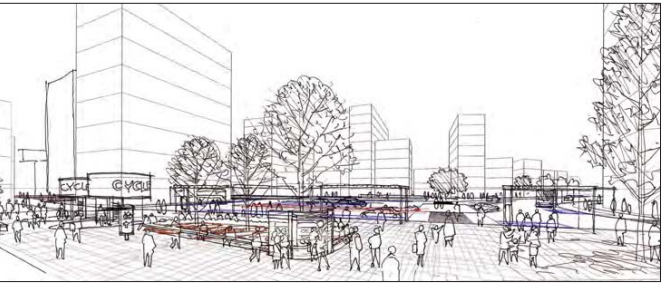
**実現に向けて**

- 保土ヶ谷宿周辺エリアの顔としての駅前広場検討
- 駐輪場等の再配置や民間運営等の検討
- 広場内の植栽や水辺などの地域による維持管理

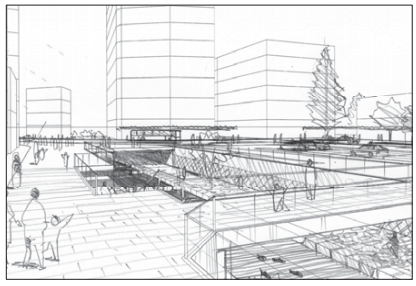
#### “まちづくり” “みちづくり” の方針（まち・みち再生基本構想より抜粋）

- ・まち歩きの出発点として滞留空間と情報発信機能を持たせる。
  - ・旧東海道への道筋や今井川の川筋との関係性を高める駅前広場空間づくり。
  - ・保土ヶ谷駅西口商店街や今井川等を含めた回遊エリアの形成
  - ・駐輪場の規模や配置、整備方法を検討する。
  - ・バス・タクシー等の必要バースを再整理しレイアウト検討を行う。
- ・社の空間デザインの検討
- ・旧東海道への動線を強化する舗装の統一
- ・旧東海道とのつながりを感じる駅前広場のデザイン
- ・バス・タクシー等の必要バース数の再整理とレイアウト検討
- ・駐輪場（配置・規模・整備方法等）の検討
- ・滞留空間・情報発信機能の確保
- ・古くから親しまれているイチヨウの活用

空間イメージ：駅舎前から見た駅前広場全景



空間イメージ：今井川を活かした親水空間





### 3.重点地区の再生計画（抜粋）

#### 【③保土ヶ谷小学校跡地】

##### 場所の背景・現況等

- ・平成 12（2000）年まで保土ヶ谷小学校が立地し、地域コミュニティの拠点であった。
- ・保土ヶ谷区プラン（平成 14 年 8 月）に「保土ヶ谷小学校跡地の活用」が位置付けられている。
- ・地域内の貴重なまとまったオープンスペース
- ・保土ヶ谷小学校が移転してからは、イコットハウスとして使用され、イベント等で地域活動団体や地域住民を始めとする地域内外の幅広い市民の方に利用されている。

##### “まちづくり”“みちづくり”の方針

###### （まち・みち再生基本構想より抜粋）

- ・地域の人が気軽に立ち寄り自然と地域性が高まる道の駅的な機能導入を検討する。
- ・歴史を活かし地域内外で交流を深める機能導入を検討する。
- ・催事可能な広場機能の確保を検討する。
- ・施設の視認性やアクセス動線の検討を行う。
- ・駐輪場・駐車場など保土ヶ谷駅との交通機能の役割分担を検討する。

##### コンセプト

保土ヶ谷宿周辺エリアの多様な利用者や世代を繋ぎ、交流の輪を広げる拠点機能の醸成

##### 空間・デザインの考え方

- 旧東海道からの見え方にも配慮した、歴史と文化を感じさせる落ち着いた風格のある外観
- 多様な来訪者が円滑に利用できる動線計画
- 地形や風景を生かした自然を身近に感じることができる空間づくり

##### 機能導入の考え方

- 地域の歴史や文化を活かし、集い、触れ合える交流促進機能
- 「ここに来れば保土ヶ谷宿がわかる」宿場の歴史や文化を伝える地域情報発信機能
- 地域催事等の開催やまち歩き時に気軽に立ち寄ることができる休憩機能
- 多様な交通の結節点として保土ヶ谷駅前を補完する駐輪・駐車機能

##### 想定される機能一覧

- ・敷地面積：6,140 m<sup>2</sup>、用途地域：第一種住居地域、建ぺい率：60%、容積率：200%
- ・建築基準法第 22 条による区域、附置義務等：周辺地区又は自動車ふくそう地区（駐車場条例）

機能		実施内容等
交流促進	地域物産（直売所）	・朝市やマルシェ、フリーマーケットの実施を想定
	体験学習 (内訳)	・地域の小中学生や小規模教室等で活用
		料理室 工芸室
	地域学習室 (会議室)	・地域内のレクリエーション活動や小規模な催事等の開催
地域情報発信	交流広場	・用途地域により屋内の不特定多数向けのホールは難しいため、屋外もしくは半屋外で広がりのある空間の確保を想定
	保土ヶ谷文化発信	・保土ヶ谷名物や特産品の展示・販売等 ・地域生活情報や保土ヶ谷宿観光に関する書籍等の書架及び閲覧スペースの確保を想定
	地域生活情報紹介	・地域生活情報、地域活動団体等の紹介 ・催事等の開催案内
	保土ヶ谷宿観光案内	・保土ヶ谷宿全体や各時代の資源紹介 ・まち歩きルートの紹介・解説
休憩	展示ギャラリー	・地域内の歴史的・文化的資料等の展示 ・エリア内には 100 m <sup>2</sup> 以下のギャラリーしか立地していない
	お休み処・カフェ	・地域生活情報紹介スペースや保土ヶ谷宿観光案内スペースとの連携を図る ・エントランス付近への設置を想定
駐輪・駐車	WC	—
	自転車等駐輪場	・自転車駐輪場として利用
	駐車場 バス駐車場	・利用者用の駐車場 ・観光バスの駐車場

※想定される機能の中で、重点的に取り組んでいくものは今後検討する必要がある。



特産品販売  
静岡県掛川市／道の駅掛川



宿場の歴史展示・資料閲覧  
神奈川県川崎市／かわさき宿交流館



ブックカフェ  
東京都豊島区／みらい館大明日・大明小学校

##### 実現に向けて

- 地域意向・ニーズの把握や実現可能性の高い機能・施設規模の絞り込み
- 自主的・継続的な管理・運営に向けた体制の構築及び担い手の育成
- 民間活力の活用も視野に入れた事業手法の選択





【④天王町駅周辺】

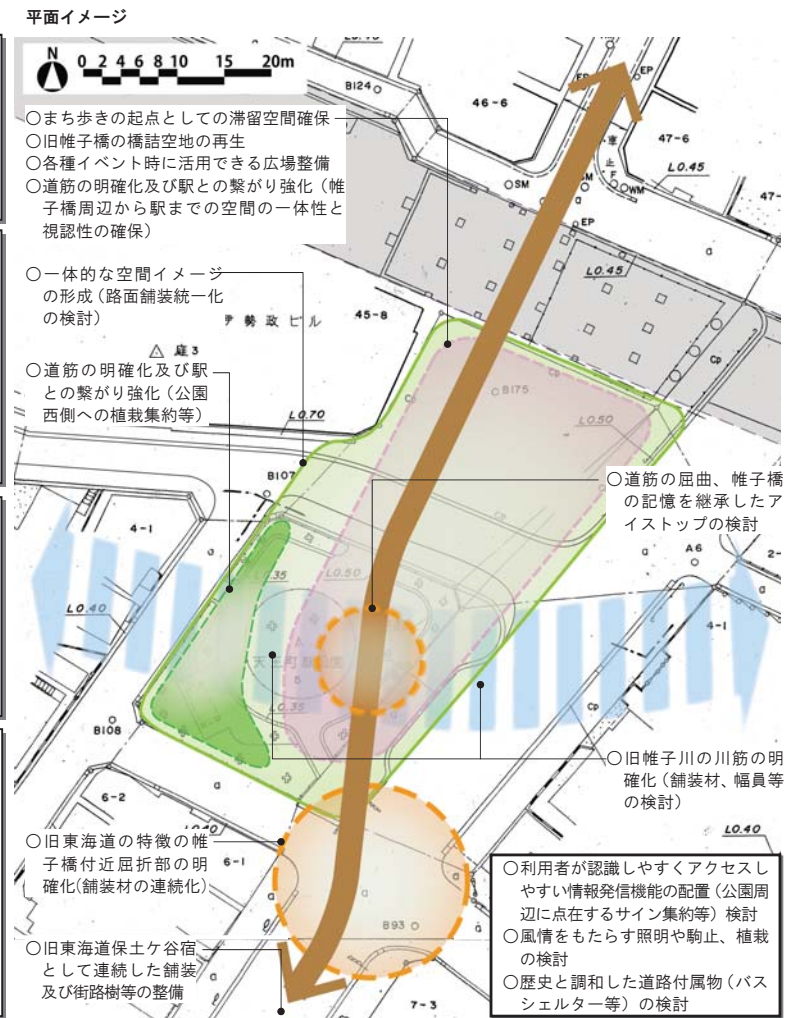


**コンセプト**  
 保土ヶ谷宿周辺エリアの玄関口に相応しい駅前空間の象徴性を高める一體的な空間づくり

**空間・デザインの考え方**  
 ○旧帷子橋を活かす広場と公園の一體的な空間づくり  
 ○旧東海道の道筋と旧帷子川の川筋の明確化  
 ○地域等による活用が風情を生み出す広場創出

**機能導入の考え方**  
 ○官民連携による多様なまち歩きを支援する情報発信拠点  
 ○まちの様々な人が集い憩える居場所づくり

**実現に向けて**  
 ○駅前の滞留空間確保に向けた既存自転車駐車場の代替地確保  
 ○天王町駅前広場と天王町駅前公園及び市道天王町162号線の一體的な舗装整備に向けた検討



“まちづくり” “みちづくり” の方針 (まち・みち再生基本構想より抜粋)

- ・道筋の連続性を再生する。
- ・屈折部となる道筋を分かりやすくする。
- ・駅や駅広、公園、道路等の空間に一體性を持たせる。
- ・駅前広場及びまち歩きの起点としての滞留空間を確保する。
- ・まち歩きの起点・中継地としての情報発信機能、休憩機能等を持たせる。
- ・地域の催事や日常活用が可能な広場空間を確保する。

旧東海道筋の連続性確保  
 旧帷子橋の視認性確保  
 川筋の連続性確保

駅前空間・旧橋詰広場としての一體性確保  
 歴史風情と景観の一體性確保 (駅舎・高架下・駅前空間・道路・天王町駅前公園)  
 旧東海道筋の視認性確保



現在の駅前空間の様子



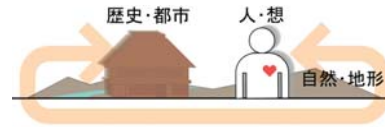
天王町駅前の江戸後期の様子



整備方針※1(概要) ※ 整備方針：横浜市都市美対策審議会にて審議し、平成 24 年 3 月に策定した「東海道の歴史的資源を活かしたみちづくり整備方針」。

1 みちづくりのコンセプト

『東海道の歴史的資源を活かしたみちづくり』  
～多くの人に愛されながら保土ヶ谷宿の歴史を紡ぐ～

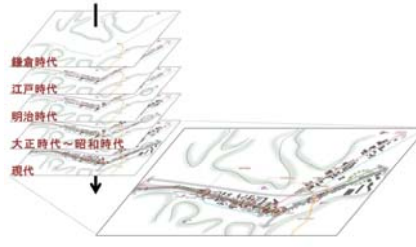


2 みちづくりの基本方針

東海道は約 400 年前から歴史を積み重ね、本金子屋跡などの貴重な歴史資産を有しながら、現在においても交通の大動脈である。保土ヶ谷橋工区では、これらの歴史資産を有効に活用しながらみちづくりを進めていく。

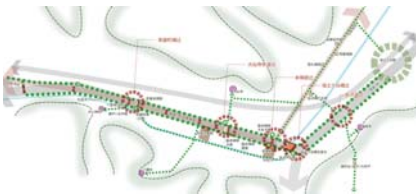
基本方針1：時代毎に刻まれた歴史を語り継ぐみちづくり

- (1) 都市形成の歴史や保土ヶ谷宿の特性の継承
  - ・L字型の宿、鉄道・道路整備等
- (2) 軽部本陣跡や旅籠本金子屋跡、保土ヶ谷橋等の現存する歴史的資源の継承
  - ・保存・復元・修景・再利活用
- (3) 失われた歴史的資源の継承
  - ・歴史的遺構等の調査、継承
- (4) 歴史が思い起こされるとともに後世にわたって継承される耐久性の高い道路整備
  - ・歴史が思い起こされるデザイン・仕掛け、後世に継承される材料等



基本方針2：保土ヶ谷宿周辺の多様な資源をつなぎ回遊の骨格となるみちづくり

- (1) 回遊しやすい「みち」と「辻※2」の整備
  - ・大仙寺・外川神社・福聚寺・八幡社、御所台（政子）の井戸、今井川等
  - ・各資源につながる各辻（軽部本陣跡前、大仙寺参道、茶屋町橋・瀬戸ヶ谷中橋、保土ヶ谷橋、金沢鎌倉道）の整備
  - ・歩行者の安全快適な通行・滞留空間確保
- (2) 回遊性を高めるサインや歴史解説板等の整備
  - ・体系的で統一性のあるサイン整備、歴史解説板等の設置



※辻：二つの道路が十字形に交差すること由来し、四方からの道が集まる交通の要所や交差点のこと。

基本方針3：歴史・文化を活かした交流促進と情報発信を支えるみちづくり

- (1) 保土ヶ谷宿のまち歩き支援と情報発信・PR
  - ・市内3宿の核としての情報発信・展示施設等整備、PR
  - ・観光・まち歩き支援（情報提供、休憩場所、トイレ等）
- (2) 地域の文化を育み・交流を促す
  - ・地域活動を活かした市内外との交流促進、地域学習などの地域内の交流促進
- (3) 箱根駅伝をはじめとするイベントへの対応
  - ・応援時の一体感、応援支援等の空間確保



基本方針4：地域とともに創り育てるみちづくり

- (1) 計画・整備段階からの市民や地域の参加
  - ・市民参加のデザインワークショップ
- (2) 管理・活用を考慮したデザインと枠組み検討
  - ・計画段階からの市民参加による維持管理への配慮



整備計画

整備方針で示された4つの基本方針に対応した整備計画とする。



整備計画1：歴史を継承する道路整備

- (1) 江戸時代や近代以降の歴史を活かした近世・近代のイメージの付与
- (2) 旧東海道の道筋、現東海道の道筋を継承する路面整備
- (3) 往時の街の状況を思い起こす町割石や街路樹等景観の形成



整備計画2：歴史的資源への回遊起点となる辻やサイン等の整備

- (1) 回遊起点となる辻の整備
- (2) 辻を結ぶ回遊ネットワークの形成
- (3) 歩行者案内サインや歴史解説板等の整備



整備計画3：魅力ある拠点形成や駅伝を舞台とした情報の発信と提供

- (1) 歴史的資源の保全・活用
- (2) 広域的な賑わいと交流の促進
- (3) 駅伝の応援と沿道の一体感の創出



整備計画4：市民参加によるみちづくりと維持管理

- (1) 市民参加によるみちづくり
- (2) 市民参加による維持管理
- (3) 市民参加によるみちを活用したイベント活動





■みちづくりの基本方針図

時代	各時代のみちづくり等の出来事	関連する歴史的資源	歴史の出来事に対応する辻							
			金沢鎌倉道辻	保土ヶ谷橋辻	本陣跡辻	大仙寺前石橋辻	茶屋町橋辻			
[中世]										
鎌倉時代	金沢鎌倉道( )、政子の井戸( )	大仙寺	○							
[近世]										
江戸時代	旧東海道( )の道筋整備・確立	◆ 軽部本陣、旅籠本金子屋 ■ 脇本陣(大金子屋、藤屋、水屋)跡、茶屋本陣跡、歴史的資源(助郷会所、問屋場、高札場)跡(現在サインのみ)、金沢横丁石碑			○	○	○	○	○	○
1601年～										
[近代]										
明治時代	鉄道開通	大仙寺参道 駅東西駅前広場			○	○	○	○	○	○
1887(明治20)年										
大正時代	震災復興	保土ヶ谷橋(震災復興橋梁)			○	○	○	○	○	○
～昭和時代初期		◆ 軽部本陣跡の鉄筋コンクリート造の蔵 ◆ 旅籠本金子屋跡住宅の屋根								
1923(大正12)年										
[現代]										
昭和時代後期～	国道1号( )道路拡幅①	◆ 軽部本陣跡の門 狩場工区整備、今井川整備、松並木プロムナード	○	○	○	○	○	○	○	○
今後	国道1号( )道路拡幅②	保土ヶ谷橋工区の整備 ◆ 軽部本陣跡、本金子屋跡、保土ヶ谷橋、一里塚・見附(復元)の活用 ● 回遊ネットワークの強化(辻空間(○)、滞留空間(●)の創出)	○	○	○	○	○	○	○	○





■整備計画

1. 歴史を継承する道路整備

(1) 江戸時代や近代化以降の歴史を活かした近世・近代のイメージの付与

- 継承する時代をイメージする素材や耐久性の高い素材の活用（図1参照）
  - 既存の歴史資源の継承と活用
  - 木や石等の自然素材や耐久性の高い構物等の素材の活用
- 東海道や宿の雰囲気、近代構構のみちづくりへの活用
  - 歴史的に価値のある資源（軽部本陣跡の門や蔵、旅籠本金子屋跡、保土ヶ谷橋等）調査と記録・保存やサイン、ストリートファニチュア（ベンチ、プランター等）としての活用
- 歩行者の快適性とまち歩きの特長、歴史的景観を考慮した断面構成の形成（図2参照）
  - 南側歩道幅員確保、無電柱化、街路樹設置等



図1 沿道のイメージパース



図2 道路の断面構成

(2) 旧東海道の道筋、現東海道の道筋を継承する路面整備

- 旧東海道の道筋の再現（写真1参照）
  - 旧東海道部分の道筋をつなげる自然な風合いの舗装（茶系）
- 震災復興街路の道筋の再現（図4参照）
  - 震災復興街路である本陣跡前交差点から保土ヶ谷駅東口方向の舗装（灰色系）



写真1 舗装イメージ

(3) 往時の街の状況を思い起こす町割石や街路樹等景観の形成

- 街の様子の再現（町割石、屋号境界石）（図1、3参照）
  - 宿場時代の街並みを再現する町割石の設置、往時の街の状況を想起させる屋号境界石の設置
- 歴史を思い起こす街路樹等の設置（写真2参照）
  - 宿の内外の変化を感じられる様に旧東海道（本陣跡前以西）と現東海道（保土ヶ谷橋交差点以東）で異なる樹種の設置
- 歴史を思い起こす道路附属物や占用物件の整備
  - 植栽樹、車止め、横断防止柵・防護柵、道路照明等について、旧東海道筋における近世のイメージや現東海道における近代のイメージに合う統一感のあるデザイン検討
  - 標識類、地上機器類等についても道路景観に馴染むような色彩や形態の修整整備検討
- 東海道の道路境界履歴の表示
  - 旧東海道（幅員約9m）、現東海道（幅員約18m）の拡幅の歴史を伝える道路境界履歴の表示
- 見附の復元等による宿内外区分けの表示
  - 歩行者や自動車利用者等が宿の内外の変化を感じられる見附の復元等

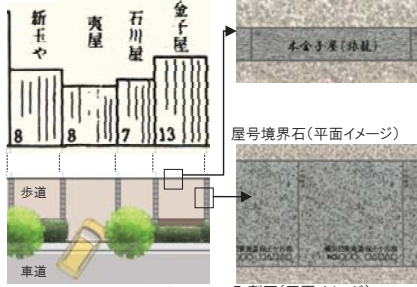


図3 昔の町割(各家の間口と屋号)



写真2 街路樹(中高木、低木植栽)の候補

2. 歴史的資源への回遊起点となる辻やサイン等の整備

(1) 回遊起点となる辻の整備

保土ヶ谷橋工区をみちの骨格として、歴史的に価値のある各資源につながる結節点に辻（図4参照）を設け、時代毎の歴史の積層と地域の構造がわかるように整備

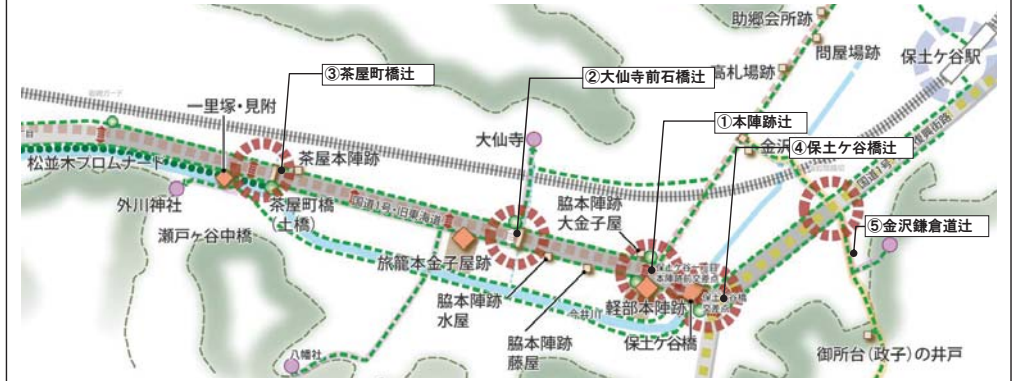


図4 辻位置図

1) 歴史まち歩きの回遊拠点としての「本陣跡辻」(図5参照)

保土ヶ谷宿のL字型の固有性の認識付与等

- 保土ヶ谷宿のL字型の形態の印象や認識を付与する交差点全体における自然な風合いの舗装（茶系）

軽部本陣跡前等の滞留空間の確保

- 交差点部における通行空間と滞留空間の確保

門構えの保存や鉄筋コンクリート造蔵等の保全・活用

- 保土ヶ谷駅方面からのアイストップ（目印）となる位置への門の配置
- 震災前に建てられた蔵の保全・活用

まち歩き情報の提供

- 歴史解説やまち歩き案内等



図5 本陣跡辻イメージパース

2) 東海道を横断し今井川に流れる水路があった「大仙寺前石橋辻」(図6参照)

回遊性を高める交差点の検討

- 街の南北を往来しやすくし、回遊性を向上するための横断歩道設置検討

参道や往時の水路を思い起こさせるイメージ付与

- 参道と交差点車道部の舗装の色彩に変化
- 参道の石畳や水路をイメージする路面舗装

交差点付近滞留空間の確保

- 歩道や滞留空間を確保するための大仙寺参道入口へのポケットパーク設置検討



図6 大仙寺前石橋辻イメージパース



3) 宿内外を分けた「茶屋町橋辻」(図7参照)

今井川への回遊の連続性確保

- ・今井川プロムナードと東海道をつなぐ辻空間のデザイン検討

一里塚・見附等の復元

- ・拡幅に伴い撤去が必要となる一里塚・見附等の移設や再設置

宿内外の切り替わり部分のイメージ付与

- ・交差点の自然な風合いの舗装（茶系）

茶屋町橋の木橋デザインイメージの付与

- ・木橋であった茶屋町橋の雰囲気創出検討

辻部デザインの住民参加による計画の検討

- ・市民との協働によるデザインの検討

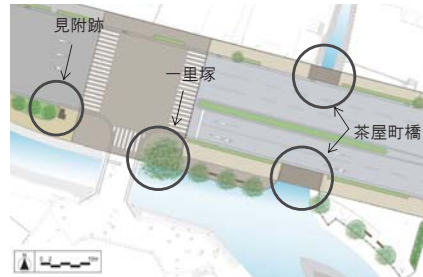


図7 茶屋町橋辻イメージ図

4) 新旧の東海道等とのつながりを生み出し駅伝の象徴となる「保土ヶ谷橋辻」(図8参照)

今井川や保土ヶ谷駅方面への回遊結節点としての滞留空間確保

- ・保土ヶ谷駅や旧東海道、今井川方面をつなぐ交差点滞留部整備

震災復興橋である保土ヶ谷橋の再利用

- ・桁の歩道下での再利用
- ・ストリートファニチュアに再利用（桁・東柱等によるベンチ・歴史解説板等）

橋詰広場・交番等の空間構成要素の導入

- ・震災復興橋を活用した滞留空間（橋詰広場）や辻内での交番の再設置検討

駅伝応援者や応援支援活動等の空間確保

- ・往路や復路からのアイストップとなる樹木の設置

辻部デザインの住民参加による計画の検討

- ・市民との協働によるデザインの検討

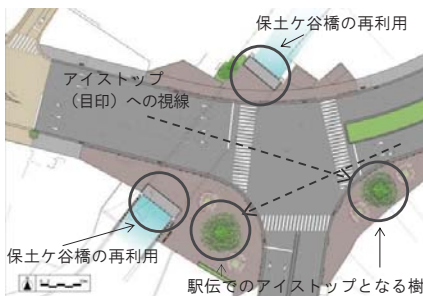


図8 保土ヶ谷橋辻イメージ図

5) 金沢鎌倉道への回遊を促す「金沢鎌倉道辻」(図9参照)

歴史の道を迎える場を認識できる空間の創出

- ・交差点部に案内サインや歴史解説板の設置

金沢鎌倉道につながるイメージを想起こす舗装等

- ・交差点の自然な風合いの舗装（茶系）

- ・旧東海道の道筋と異なる色彩の舗装

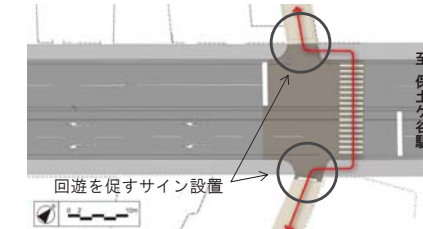


図9 金沢鎌倉道辻イメージ図

(2) 辻を結ぶ回遊ネットワークの形成 (図10参照)

1) 辻等における滞留空間の確保

- ・各歴史的資源の道路に面する部分での滞留可能な広場の空間の整備

2) 今井川と東海道の回遊ネットワーク構築

- ・各歴史的資源や社寺と広場の空間のネットワーク化

- ・今井川と東海道を往来しやすい環境づくりの推進



図10 回遊ネットワーク図

3. 魅力ある拠点形成や駅伝を舞台とした情報の発信と提供

(1) 歴史的資源の保全・活用

1) 軽部本陣跡の保全・活用 (写真3参照)

- ・震災前に建造された鉄筋コンクリート造の蔵と門の保全・活用



写真3 軽部本陣跡

2) 旅籠本金子屋跡の保全・活用 (写真4参照)

- ・旧東海道に面し、ほぼ当初の位置に現存する金子家住宅の保全・活用



写真4 旅籠本金子屋跡

(2) 広域的なにぎわいと交流の促進

歴史的資源を活用した市内外の交流や地域学習の活動連携拠点形成 (写真5参照、(写真6参照))

- ・地域交流に活用しやすいサインや休憩空間の確保
- ・軽部本陣跡や旅籠本金子屋跡との連携や滞留空間の確保
- ・市民や地域活動団体との連携



写真5 地域交流イメージ



写真6 地域学習イメージ

(3) 駅伝の応援と沿道の一体感の創出

目印となる樹木等の設置 (図12参照)

- ・保土ヶ谷橋辻でのシンボルツリー等の設置

応援や支援スペース等の確保 (図12、写真7参照)

- ・保土ヶ谷橋辻や茶屋町橋辻等において広場の空間の確保
- ・沿道の応援に配慮した築山や植栽の設置検討



図12 保土ヶ谷橋辻での築山とシンボルツリーのイメージ



写真7 駅伝時の応援の様子

4. 市民参加によるみちづくりと維持管理

(1) 市民参加によるみちづくり

1) 辻の設計における市民参加 (写真8参照)

- ・保土ヶ谷橋辻や茶屋町橋辻におけるワークショップ等

2) みちづくりへの市民参加 (写真9参照)

- ・市民と協働したみちづくり
- ・市民が道路整備に携わる場の創出



写真8 ワークショップのイメージ



写真9 市民参加による道路整備イメージ

(2) 市民参加による維持管理

1) ハマロード・サポーター制度等の活用 (写真10参照)

- ・多様な主体と連携した維持管理

2) 取得済み用地等の暫定活用 (写真11参照)

- ・市民による植栽等の地域活動
- ・宿場の雰囲気を創出する管理用フェンス等の設置検討



写真10 ハマロード・サポーター活動イメージ



写真11 取得済み用地暫定活用イメージ

(3) 市民参加によるみちを活用したイベント活動

・絵画コンクール等の実施 (写真12参照)

・維持管理等のイベント実施 (写真13参照)

- ・地域活動団体、学校、住民等の連携によるイベント実施



写真12 屋外展示のイメージ



写真13 市民参加による維持管理イベントイメージ



■まちづくりとみちづくりのコンセプト

『各時代の積み重ねを活かし未来へつなげる“まちづくり”“みちづくり”』

【視点1】“みち”と“まち”の変遷を地域の魅力として継承する

【視点2】地域内外の交流を活性化する

【視点3】まち・みちへの愛着を深め、誇りを高める

■道路空間の整備コンセプト

保土ヶ谷宿の道筋発展の歴史を活かし  
“まちに奥ゆきを与える”みちづくり

【景観整備の方針】

方針1 旧東海道の多様な道路幅・道路断面を1つにつなぐ街道風情漂うみちづくり

- ・道筋としての連続性の強化
- ・街並み形成などによる道筋のつながりの強化

方針2 歴史の深みを継承し、まちの奥行きを作る回遊性の高いみちづくり

- ・古道や現・旧河川、明治以降の道筋・川筋と資源の活用
- ・道筋の特性を活かした辻空間の形成

方針3 暮らしの豊かさを高めるみちづくり

- ・店舗や住まいの立地が促され、活用される魅力的なみちづくり
- ・脇道や路地、参道等の活用

■情報発信・交流促進のコンセプト

住む人・訪れる人を繋ぐ、拠点の形成

【拠点整備の方針】

方針1 時代とひとつをつなぐ拠点の活用強化

- ・公民の既存交流施設の活用促進
- ・社寺や公園、名産品店舗等の活用

方針2 まち歩きを支援する情報・休憩拠点の形成

- ・天王町駅・保土ヶ谷駅での駅や駅周辺における滞留空間の確保と情報発信
- ・天王町駅付近でのまち歩きの中継地としての休憩機能確保

方針3 歴史がしみ込み、地域住民同士やまち歩き等で訪れる人々をつなぐ交流拠点の形成

- ・気軽に利用でき、自然と地域性が高まる拠点づくり
- ・歴史を活かした地域内外の交流促進
- ・保土ヶ谷小学校跡地の活用

■地域活動連携のコンセプト

地域とともに創り育てるまちづくり、みちづくり

【地域活動連携の方針】

方針1 まち・みちへの関心と繋がりを強化し、まちづくり・みちづくりの推進力を高める

- ・市街地の変遷の特徴を活かした繋がりがづくり
- ・地域活動団体、地域内外の連携の促進

方針2 計画・設計、整備、管理・活用の各段階等への市民参加

- ・多様な市民参加手法の活用
- ・社会実験・イベント等の活用

【重点地区の“まちづくり”“みちづくり”の方針】

【保土ヶ谷駅西口商店街周辺】

- ・継承される道幅の活用
- ・歩行者の安全性の確保
- ・歩車共存道路の実現
- ・交通のあり方検討
- ・街道風情を感じる設え
- ・地域活動等への対応 等

【保土ヶ谷駅西口周辺】

- ・まち歩きの起点機能の確保
- ・旧東海道への道筋や今井川の川筋との関係性を高める駅前広場形成
- ・西口商店街や今井川等を含めた回遊エリア形成
- ・駅広機能の再整理や駐輪場対応 等

【保土ヶ谷小学校跡地】

- ・道の駅的な機能の導入検討
- ・歴史を活かした地域内外交流機能の検討
- ・広場空間の検討
- ・視認性とアプローチ動線の改善検討
- ・駅との駐輪場・駐車場等の役割検討
- ・複合施設化の可能性検討 等

【天王町駅周辺】

- ・道筋の連続性の再生
- ・まち歩きの起点・中継地としての機能導入
- ・旧帷子橋の活用
- ・駅舎 駅広 道路 公園等の空間の一体性確保
- ・地域による活用 等

【天王町駅高架下・沿道】

- ・高架下と沿道による新たな筋の形成
- ・帷子川の親水性や古道・旧東海道の歴史を活かした空間づくり
- ・安全で快適な道路整備や賑わい形成 等

【天王町商店街・洪福寺松原商店街】

- ・道路や施設のバリアフリー化
- ・交通のあり方検討
- ・賑わいの維持向上の検討 等

■まち・みちの再生に向けて

旧東海道から“まち・みち・ひと”が、繋がり広がるまちづくり・みちづくり